



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 横河電機株式会社

5

## —グローバル生産への取り組み—

横河電機株式会社の社長を1999年から2007年まで務めた内田勲は、1988年の海外生産推進本部長時代からずっと手掛けてきた同社のグローバル生産体制である One Global Factory System (以後、OGFS と略記する) について思いを巡らせていた。我が社に限らず、日本の製造企業が自社の技術と雇用を守り、カスタマーセントリックなモノ作りをグローバルに展開していく上で、この OGFS のコンセプトは有効な考え方であるはずだ。一方で、このような形態でグローバル生産を推進していく為には、情報技術の活用に加えて、品質を中心とした生産現場でのモノ作り力を高いレベルで維持することが不可欠であるとも、内田は考えていた。

10

15

## 企業概要

横河電機株式会社 (Yokogawa Electric Corporation) の沿革と年譜を**付属資料 1, 2**に示す。世界中の各種の産業分野に電気計測器、制御機器の提供を続ける同社の歴史は、1915年に、創業者の横河民輔によって電気計器の研究所が東京府渋谷町に設立されたことから始まる。創業時は、主に物理学や電気技術の研究に従事していたが、やがて産業界での需要の高まりを受けて、電気計器の製造に注力していく。横河民輔は、「君たちは、この仕事で儲けようなどと考える必要はない。それよりもまず、技術を覚え、技術を磨くことだ。横河電機の製品はさすがに良い、と言われるようにしてもらいたい」との言葉を残しており、この考え方は、「品質第一主義、パイオニア精神、社会貢献」との創業の精神として、現在も引き継がれている。1917年には、電気計器を発売し、電気計器の国産化の先駆けとなった。1920年には株式会社化され、1933年には、航空計器、流量・温度・圧力等の自動調整装置の研究・

20

25

本ケースは、2023年8月の情報に基づき、表題企業の元最高顧問である内田勲氏の協力を得て、慶應義塾大学大学院経営管理研究科の稲田周平が執筆したものである。本ケースは、クラス討議の資料として用いるためのもので、経営管理の巧拙を記述したものではない

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール (〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法 (電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない) による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright © 稲田周平 (2024年2月作成)